志摩市の新鮮な魚介を扱う老舗として
周囲への感謝を胸にさらに社員が輝く企業へ

波切漁港に水揚げされた新鮮な伊勢志摩の海産物の、卸売・販売を手掛けている『丸義商店』。1977 年の創業以来、近隣の一流ホテルから一般客まで幅広い顧客に届けてきた。そんな同社を、タレントの市井紗耶香さんが訪問。2024 年に 3 代目に就任した田端取締役と、未来を見据えた経営を力強くサポートしている『山木田篤則会計事務所』の大島氏のお二人に、お話を伺った。

有限会社 丸義商店
三重県志摩市阿児町鵜方 1678-2
URL：https://www.maruyoshi-sengyo.co.jp/

山木田篤則会計事務所
岐阜県各務原市小佐野町六丁目 62 番地 1 階南

㈲丸義商店 取締役
田端 義伸

山木田篤則会計事務所
大島 慶彦

家業を継ぎ 3 代目に 良い出会いから経営者として変化

――『丸義商店』さんでは三重県志摩市の魚介類を扱っておられるそうですね。

（田）　はい。当社は私の家業で、学業修了後は別の仕事をしていましたが、「継がないなら店を閉める」と親から言われ、継ぐ決断をしました。やるならば魚屋として目立っていこうと、情報発信や人脈経営に注力。一方で、経営者としての不安もあったんです。そんな私にとってターニングポイントになったのが、『山木田篤則会計事務所』さんとの出会いです。

――アドバイスを頂けたのでしょうか。

（田）　担当の大島さんが、「悩んでもいい。ただ、プラスの悩みに変えてください」と言ってくださいました。それからは考え方が変わり、漠然とした不安を具体的な一つひとつの課題と捉えるようになりました。

（大）　私は税理士事務所として、過去の数字は変えられないものだと思っています。それなら未来の数字を自分たちでどう作っていくのか、ということを田端取締役にお話ししていきました。具体的に行ったこととしてはまず、現場から離れてもらったんです。

（田）「もっと大きな視野で会社を見てほしい」という意図でのことでした。ずっとプレイヤーだった私としては不安でしたが、言われた通りに離れてみると、会社が進むべき方向性が見えてきたんです。私の立ち位置が明確になったことで、社員さんの意識改革やルール作りなども、皆で取り組めるようになりました。

――すぐに効果的な変化を実感されたわけですね。

（大）　逆に私から見ると、『丸義商店』さんの地力は凄いと感じていたんですよ。ただ、力業な部分があったので、我々が少しテクニックをミックスして差し上げることで、よりスムーズな経営が可能になるというイメージですね。

（田）　お客様を大切にすると同時に、社員さんをどう幸せにしていくか。以前は抽象的に考えていた目標を、具体的にどう実現していくのか、というプロセスを教えていただいたのです。

――プロの客観的な意見によって、経営者としてステップアップしていかれたのですね。他にはどのようなことを学んでこられましたか。

（田）　大島さんの提案で、志摩市の観光の現状を昭和から今まで洗い出しました。観光協会や市役所を回ってデータ収集する中で、地域における自分たちの立ち位置や存在価値が見えてきました。すると、どの層をターゲットにするのかといった、具体的な戦略が立てられるようになり、見える景色が変わって驚きましたね。

（大）　志摩市は特殊な地域で、市町村のブランド力ランキングでは最上位なのですが、消滅可能性都市でもあるという両極端な面があります。そうなると、自分たちで何か仕掛けていかないといけない。そのためにも過去のデータを調べ、街の性格と自分たちの立場を把握することが必要です。そこから 5 年後に数字を出すための答えが出てくるはずなんです。

――すごく理論的で実践的ですね！　経営ってもう少し感覚的なものかと思っていました。

（田）　もう 1 つ、自社の歴史を一から勉強するように言われました。家業のルーツや創業者の思いも知らずに、事業承継はできません。以前、会社のロゴを私が変えたことがあったのですが、今は戻して大事に引き継いでいきたいと思っています。また、経営者の勉強会などにも参加するようになり、世界が広がって何に対しても興味を持てるようになりましたね。月に 1 度の社内会議では、社員さんの意見を聞くようにし、不満などを拾えるようにしています。

社員とお客様のために 経営者としての役割を果たしたい

――お話しする取締役の様子は活き活きしておられますよ。

（田）　大島さんたちとの出会いからほんの数カ月で、経営者として大きく変わったんです。以前は自分が目立ちたいと思っていた私に、主役は社員さんだと気付かせてくれました。今は私は主役を輝かせるための脇役だと思っています。

（大）　私は陰でクライアントさんを補佐するのが好きなんです。特に中小企業さんを会計・財務業務の部分からサポートし、上下なく意見を言い合える関係になれたら嬉しい。田端取締役がおっしゃるように、経営者一人が目立つより、社員さん皆を輝かせたほうが企業の認知度が上がるので、そのためにどうするか、夢を盛大に語ってもらっている状況ですね。

（田）　これまでには苦労や裏切りも経験してきましたが、今は本当に信頼できる人に出会えて感謝してもし切れません。出会う人によって、経営だけでなく会社のカラーも仲間も変わるのだと実感しています。

――人は宝、と言いますが、大島さんとの出会いから取締役の社員さんへの思いがより強くなったような印象です。取締役としては、会社にどういった人材を求めておられますか。

（田）「ありがとう」が言える人です。お客様相手の商売ですし、挨拶は人として当たり前のこと。当社は、会社としてその“当たり前”で一流を目指していきたいと思っています。そこを疎かにすれば、大きなことは成し遂げられません。

――お話は尽きませんが、今後の目標を教えていただけますか。

（田）　多くの方に漁業・水産業に興味を持ってもらうため、志摩の魚屋として先頭に立って発信していきたいです。その一環として、マグロの解体ショーや捌き方教室を開催しているんですよ。そうして活気を生みながら、お客様と社員さんにもっと幸せになってもらえる企業にしたいですね。そうすれば、もし今後不況や災害が起こっても、皆で乗り越えられるくらい強くなれると信じています。これからも、『山木田篤則会計事務所』さんと一緒に大きくなっていきたいです。

（取材／ 2024 年 10 月）

経営者として自信と希望を持って

田端取締役は、『山木田篤則会計事務所』との出会いで人生が大きく変わったと語った。共通の知人からの紹介で繋がったそうで、大島氏は「当時の田端取締役からは、どの方向に走ればいいのか分からない、という焦りが感じられました」と振り返る。しかし、大島氏の目から見て、会社の現状は決して悪くなかったという。そこで、まず良い部分を再認識してもらった上で、経営者として会社を客観的に見られるようサポートしてきた。そこから数カ月で会社は大きく変わり、取締役の表情も活き活きするようになった。

今は何をするにもワクワクし、楽しめているという取締役。「これから社員さんと『山木田篤則会計事務所』さんと一緒に、何か世の中に爪痕を残したい」と語る。その口調は熱く、未来を見据える目は輝いていた。

After the Interview

「田端取締役と大島さんのお話を聞き、お二人の信頼関係の深さに驚かされました。経営者と税理士事務所であれほどの絆を築いておられる例は初めて見させていただきましたよ。もともと取締役が持っていらっしゃった、社員さんへの思いも具体化して会社がより良くなっているそうですから、今後が楽しみです。志摩市の魚介の魅力もさらに発信されていくことでしょうね」

タレント 市井 紗耶香